

単元構想表 教科(社会) 学年(2)年

単元名:日本の諸地域「北海道地方」

単元で付けたい力:

- 北海道地方について、その地域的特色や地域の課題を理解すること。
- 北海道地方について、寒冷な気候において稲作が成立している条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。
- 北海道地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。

時	めあて	学習の流れ (クラウド活用は赤字・波線) (家庭学習とのつながりは青字・斜体)	まとめ・ゴールの姿	生徒の引き出したい振り返り	教員の振り返り
1	北海道地方の自然環境の特徴を理解し、その特徴が米生産に与える影響を考察しよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道の雄大な自然を映像や写真で紹介し、生徒に関心を持たせる。</li> <li>北海道の地図を用いて、地形、気候、植生などの自然環境の特徴を調べる。(地形・地名については、ワークシートにまとめる。)</li> <li>自然環境が米生産に与える影響について個人思考のあとグループで話し合い、意見をまとめる。クラウド上で他者参照を行い、自分たちと違う意見のグループに聞きに行く。</li> </ul>	北海道の気候は本州以南とは異なり、冷帯(亜寒帯)に属し、冬は厳しい寒さが続く。北海道の夏は短く、稲の成長に必要な十分な日照時間が得られにくく、稲作には適していないといえる。また、泥炭地や湿地帯、火山灰に覆われている地域も多く、土地の栄養不足や排水の悪さなどから、稲作には不向きである。	北海道の自然環境について詳しく学ぶことで、本州とは異なる気候や土地の性質が分かりました。高知県の農業とも大きく違うなど思いました。北海道の気候や土地の特性を生かして他とは違うどんな作物が栽培されているのか気になったし、他の地域と比べて、北海道の米作りにはどんな工夫がされているのか調べてみたいと思いました。	
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道の米の生産量に関する資料を見て、全国と比較してもトップクラスの生産量であることに気付く。</li> <li>単元を貫く課題の設定</li> </ul>			
	なぜ、北海道は寒い気候なのに、米の生産が盛んなのだろう。	<p style="text-align: center;">なぜ、寒冷な気候の北海道なのに、温暖な気候が適している米の生産が盛んなのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>米の生産量が多い理由について仮説を立て、クラウド上で共有し、北海道の米生産の歴史を年表や資料を使って調べる。(自分と似たような仮説を立てた生徒同士で協働も可能とする。)</li> <li>北海道で行われている土地改良や品種改良の取組の必要性について、自然環境との関わりから考察する。</li> </ul>	北海道地方における米生産は、開拓以来様々な課題を克服しながら発展してきた。近年は、品種改良や栽培技術の進歩により、食味や品質が向上し、全国でも有数の米どころとして知られている。しかし、担い手不足、気候変動、生産コスト上昇など、新たな課題にも直面している。	開拓時代から現在までの歴史的な課題や技術の進歩について知ることができました。しかし、担い手不足や気候の変化などの新たな課題も出てきていることは、農家の人にとっても深刻だと思えます。担い手不足を解決するためにはどのような対策が必要なのか考えていきたいです。	
3	北海道で、畑作や酪農、漁業が盛んになったのはなぜだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道の気候を生かした、稲作以外の農業や漁業は、どれくらいの生産高(全国との比較)かを予想する。</li> <li>厳しい自然環境の中で、多くの農産物を生産できるのはなぜか、稲作について学習したことをもとに調べる。(他者参照)</li> <li>北海道で畑作や酪農、漁業が盛んになった理由について考察する。</li> </ul>	北海道の畑作や酪農、漁業は全国トップクラスの生産量を誇っている。冷涼な気候を生かした酪農や、豊かな漁場を生かした漁業など、北海道の地域的特色を生かしている。さらに、土地の改良や大型機械の使用など、人々の努力や新しい技術の導入などが生産量の向上につながっている。	北海道の冷涼な気候が酪農や漁業に適していることが分かりました。豊かな漁場も北海道の特徴であり、地域資源を活かした生産が行われていると思えます。大型機械の導入や土地の改良には、多くのお金がかかると思うので、その資金をどのように生み出していくのが課題ではないかと思えます。	
4	北海道地方では、厳しい環境にあるなか、なぜ観光客が増加しているのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道の観光客数の経年変化の資料より、観光客が増加している理由について仮説を立てる。</li> <li>仮説を検証していくために、教科書や地図帳、インターネットなどを利用して、資料収集を行う。クラウド上で参考にした資料の共有を行うことで、様々な視点からの考察を促す。</li> <li>北海道の観光業を持続可能なものにしていくうえで、解決していかなければならない課題について考える。</li> </ul>	北海道は、そこにしか見られない雄大な自然環境を生かし、四季折々の楽しみ方を発信している。近年特にアジア圏を中心とした外国人観光客に人気である。一方で、ごみの増加や自然環境への影響などの観光公害や、地球温暖化による気候変動への対応などの取り組みが必要である。	北海道の厳しい自然環境をマイナスに捉えず、稲作にも力を入れ、北海道だからこそできる観光業を確立しているすごいと思った。地球温暖化の問題もあって、自然環境が変化していくなか、持続可能な観光地づくりに向けて、私たちができることは何かということについて考えていきたいと思った。	
5	まとめ (単元を貫く課題に対する考察のまとめ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元を貫く課題「なぜ、寒冷な気候の北海道なのに、温暖な気候が適している米の生産が盛んなのだろう。」に対する考察を各自でまとめる。(クラウド上で他者参照を可能とするが、ある程度の個人思考の時間を確保したうえで行う。)</li> <li>補充プリント(他の地方)の実施 [見方・考え方を働かすことができるかという視点で活用]</li> <li>解答理由を友達に説明する。そのときに見方・考え方を働かすことができるかを確認する。</li> </ul>	北海道は本来米作りに適さない寒冷地だが、豊かな自然環境と人々の努力により、全国有数の米どころとなっている。広大な土地、豊富な水資源、昼夜の寒暖差、肥沃な土壌というような自然環境が、米の甘み、旨味、栄養を育む。品種改良や栽培技術の進歩、農業従事者の努力も大きな要因である。一方で、高齢化と後継者不足により、担い手不足が深刻化しており、農業従事者の平均年齢は高く、若い世代の農業への参入が進んでいない。新規就農者を増やすための政策や取り組みが必要である。	単元全体の学習を通して、北海道の厳しい自然は、そこで暮らす人々にとって良くないものだと考えていたが、それを克服する技術や人々の努力で、北海道ならではの特色を生かした産業が発展してきたのだと分かりました。自然環境と人々の関係は、その自然環境をどのように生かすのかを考えていくうえで大きく変わってくるのだなと思いました。まだ北海道には行ったことがないけれど、行ったときには自然を生かした観光や農業をもっと探していきたいと思いました。	

単元ゴールの姿:

北海道は本来米作りに適さない寒冷地だが、豊かな自然環境と人々の努力により、全国有数の米どころとなっている。広大な土地、豊富な水資源、昼夜の寒暖差、肥沃な土壌というような自然環境が、米の甘み、旨味、栄養を育む。品種改良や栽培技術の進歩、農業従事者の努力も大きな要因である。一方で、高齢化と後継者不足により、担い手不足が深刻化しており、農業従事者の平均年齢は高く、若い世代の農業への参入が進んでいない。新規就農者を増やすための政策や取り組みが必要である。